

立命館経済学 第三十卷総目次(昭和五六年度)

論 說

全般的危機論の検討……………

田中宏道……………号 頁 一(一)——三四(三四)

中京工業地帯と工業用地問題(下)……………

杉野 罔明……………一(三五)——一七(一七)

——高度経済成長期における工業立地とそれをめぐる  
社会経済的諸問題——

経済学史の意義とその方法(一)……………

上野俊樹……………一(一六)——一九(一九)

アメリカ巨大企業G E社 (General Electric Co.)

の組織変革(一)……………坂本和一……………二(一七)——二四(二七)

——事業部制組織・マトリックス組織・戦略事業単位——

「社会的共同業務」と国家(上の一)……………

上野俊樹……………二(二五)——二六(三四)

国家の階級性と公共性の理解の前進のために——

イギリス石炭鉱業と初期鉱山立法……………

若林洋夫……………二(三七)——二八(三六)

——一八四二年『児童雇用委員会』報告とアシユリイ  
法案を中心として——

政策科学と計量経済モデル(二)……………

山田 彌……………二(一九)——三三(四〇)

兵器の共同研究・開発・生産……………

木原正雄……………三(四五)——二七(五一)

——核時代の経済——

勤労者家計の統計的研究……………

関 彌三郎……………三(四五)——二七(五一)

二つの独占理論……………

小檜山 政克……………三(四五)——二八(五一)

——白杉庄一郎氏とルダゴワ女史——

欧州通貨制度 (EMS) の発足とその運営について……………	清水貞俊	三四・五	八六(五七〇)——一三三(六〇七)
西ドイツ経済専門家委員会答申の政策論理……………	坂野光俊	三四・五	二四(六〇八)——一六(六五二)
価値諸範疇の体系性について……………	杉野罔明	三四・五	一六九(六五三)——一九〇(六七四)
マルクス経済学における企業論の具体化……………	坂本和一	三四・五	一九(六七五)——三四(七〇八)
経済学史の意義とその方法(三)……………	上野俊樹	三四・五	三五(七〇九)——二六(七四六)
資本制の存続条件としての産業予備軍……………	甲賀光秀	三四・五	二六(七四七)——二九(七七七)
石油危機における価格構造変化の多部門分析……………	山田彌	三四・五	二四(七七八)——三三(八二六)
国際収支の均衡と貿易の均衡……………	岩田勝雄	三四・五	三三(八二七)——三六(八五二)
景気安定化政策と国債問題……………	北野正一	三四・五	三六(八五三)——四〇(八九四)
資本主義の基本矛盾について……………	角田修一	三四・五	四一(八九五)——四四(九三〇)
大正期・昭和初期の信用組合論……………	伊藤正直	三四・五	四五(九三一)——四九(九七五)
Aggregate やれた輸入需要関数における関数形と 価格の同時特定化について……………	本田豊	三四・五	四九(九七六)——五〇(九八八)
現代資本主義における労働者権利(一)……………	三好正巳	六	一九九(一〇二二)——二四(一〇二三)
——労働政策論の課題と方法——			
経済学史の意義とその方法(完)……………	上野俊樹	六	三五(一〇三三)——八二(一〇七〇)
北東イングランド地域産業史分析序説……………	若林洋夫	六	八三(一〇七二)——五〇(一一三)

研究

高度成長下における財政の社会・経済機能……………	藤岡純一	一	一〇〇(一〇〇)——一三(一一)
一九世紀中葉イギリスの労働者生活と生命保険(下)……………	横山寿一	一	一三(一一三)——一七(一二七)
——簡易生命保険の生成と展開——			

『金融資本論』における株式会社、独占と金融資本(下)……………佐々本秀太  
二………三三(四〇〇)——三五(四四〇)

「流通手段の前貸と資本の前貸」について……………浅田和史  
二………二五七(四三五)——二九六(四七七)

——久留間建氏の所説の検討——  
低成長期における鉄鋼巨大企業の生産管理……………山本幹夫  
六………一五二(二二九)——一八八(二七六)

——鉄鋼一貫生産体制の新たな展開——  
構造不況地域における離職者の動向と雇用問題……………湯浅良雄  
六………一八九(二七七)——二四〇(三二六)

——京都府舞鶴市を事例として——

研究ノート

「窓口指導論」の課題……………河野快晴  
六………二四二(三三九)——二五二(三三九)

書評

坂寄俊雄・塩用庄兵衛編『労働問題の今日的課題』……………向井喜典  
六………二五二(三四〇)——二六六(三六四)

立命館大学創立八十周年記念論文集

記念論文集の刊行にあたって……………天野和夫  
三・四・五……………i—ii

八〇周年記念論文集によせて……………小檜山政克  
三・四・五……………iii—iv

共同研究室

昭和五六年度第一回研究会「部落問題研究

をめぐる最近の動向」……………馬原鉄男  
二………二九九(四七七)——三〇一(四七九)

昭和五六年度第二回研究会「最近の所有論、  
社会構成体論の研究動向について」……………後藤文靖  
二………三〇一(四九九)——三〇二(四八〇)

——角田論文・向井論文・須藤論文——

昭和五六年度第三回研究会「労働者階級の構成、貧困化、

主体形成をめぐる理論状況について」……………戸木田嘉久  
二………三〇二(四八〇)——三〇五(四八三)

昭和五十六年度第四回研究会「高度経済成長」

と政府の経済計画

真鍋能章

二……三〇五(四八三)——三〇五(四八三)

昭和五十六年度第五回研究会「石油危機と日本経済」

本田豊

六……二九七(三八五)——二九九(二八七)

昭和五十六年度第六回研究会「特定不況地域の雇用問題」

湯浅良雄

六……二九九(二八七)——二九九(二八七)

——「特定不況地域離職者臨時措置法」の

京都府・舞鶴市における展開——

「低成長期における鉄鋼巨大企業の生産管理」

山本幹夫

六……二九九(二八七)——二九九(二八七)

——鉄鋼一貫生産体制の新たな展開——

昭和五十六年度第七回研究会

「プロイセン工場法成立史」

川本和良

六……二九九(二八七)——二九九(二八七)

昭和五十六年度第八回研究会

「社会保険と営利保険の交錯」

横山寿一

六……二九九(二八七)——二九九(二八七)

——イギリス初期社会保険の「認可組合」制度と

簡易生命保険団体——

昭和五十六年度第九回研究会「土地制度史学会

共通論題への若干のコメント」

後藤靖

六……三〇〇(二八八)——三〇七(二九五)

本年度会員業績……

六……三〇七(二九五)——三〇〇(二八八)

立命館経済学総目次第一巻第一号——第三十巻第六号・著者別索引……

六……三二(三九九)——三七二(三五九)